

# 緑化樹木の情報誌 緑化通信

2012  
10月25日  
(偶数月25日発行)  
第426号

発行所  
社団法人 日本植木協会

〒107-0052 東京都港区赤坂6-4-22 三浦ビル3階  
TEL.(03)3586-7361 FAX.(03)3586-7577

購読希望の方は上記宛へお申込み下さい。年間購読料 5,000円

【視察地マップ】



岩手県碁石海岸から開始し、宮城県まで南下するルートで調査を行った。

【旅程と内容】

日付	場所	主な調査(見学)対象
8/20 (月)	① 大船渡市碁石海岸	最北の常緑広葉樹生育地
	② 陸前高田市	高田松原の1本松
	③ 気仙沼市	気仙沼湾に突き出た猪狩神社社叢林
	④ 南三陸町志津川林	大津波に耐え抜いた海岸林の大木
8/21 (火)	⑤ 松島町	松島湾に浮かぶ福浦島自然林
	⑥ 塩釜市	塩釜神社の社叢林(常緑樹混交林)
8/22 (水)	⑦ 山元町花釜	大津波に耐え抜いた屋敷林(イグネ)の大木
	山元町牛橋	牛橋公園の樹木(冠水耐性)
	岩沼市	空港南公園「いのちを守る300キロの森づくり」
	岩沼海浜緑地 若林区海岸公園	空港周辺植栽視察



宮城県山元町花釜  
大津波に耐え抜いた屋敷林(イグネ)の大木ほか調査

震災復興に際し、海岸の植物としてどのような樹種を用いるのが良いかを検討している災害復旧樹種検討委員会(委員長:濱野周泰)は、八月二十日(月)から二十二日(水)の三日間、震災から一年半が経過した被災地等で現地調査を実施した。

東京農業大学教授は、八月二十日(月)から二十二日(水)の三日間、震災から一年半が経過した被災地等で現地調査を実施した。

地域性植物適用委員も調査に貢献

おもな調査内容は左記であつた。

(1) 海岸ぎりぎりまで山が迫り内陸性の植物が育つている状況(岩手県)

(2) 常緑樹がどこまで分布しているかの確認

(3) 津波をかぶったが枯れないで残っている樹

本調査は、地域性植物種の確認

地域性委員会の研修会も併催し、十六名の会員が参加した。参加者は、災害復旧検討委員会委員から多くの指導を受けると共に、積極的に意見交換を行った。検討委員会委員が加わったことにより、多角的な視点からの調査、意見交換が行われた。



濱野委員長による初日の挨拶(岩手県大船渡市碁石海岸にて)



検討委員会委員、地域性植物適用委員会委員、事務局総勢23名での現地調査

## 3日間の調査を終えての所感(抜粋) 牛橋公園(宮城県山元町)にて

委員長:濱野周泰氏(東京農業大学教授)

碁石海岸周辺或いは松島あたりで、海のギリギリのところで生育していた、或いは津波を被っても生育していた木が、こちら(宮城県山元町)に来ると枯れている。

このことは、地域性苗木の考え方の根本に通じる事だと思う。今まででは、気候適応だけで考えてきたが、実は、本当は、この目に見えない下の部分(地盤)の話だと思う。

このような事も新しい課題として研究し、社会的説明責任を果たす意味からも、データは学会をとおして発表するばかりでなく、先に協会の情報紙に速報的に載せることも考えたい。

今回の研修で、皆さんからの質問に答えたり、ディスカッションをしながら現場を見ることが出来た。このような事は、たいへん有意義であることを改めて感じた。

委員:野田坂伸也氏(株野田坂緑研究所代表)

海岸だからと先入観を持たないで見てほしい。自分で海岸を見て、この海岸は非常に環境の厳しいところか、全然厳しくないところかを判断出来るようになってほしい。ただ単に、海岸は環境が厳しいと考えてやると、とんでもない間違ったことをしてしまうので、最初に環境を見抜く力を持つ必要がある。

地域性委員会の方たちに申しあげたいのは、はじめに自分が住んでいる地域を、山や川のそば、南斜面や北斜面、風の強い所等をはっきり意識しながらたくさん見て比較していただきたいということ。樹木の名を覚えると同時に、どういう場所のどういう環境の中で、どういう育ち方をしているかも分らないと役に立たないからだ。そういうふうに意識しながら見る習慣を身につけてください。

※現地調査内容は、(社)日本植木協会ホームページ 会員限定情報 会議報告にて詳しくご覧いただけます。

## 頑張れ東北 負けない日本 リース

仕事で使う車は、「所有」より(リース)が断然有利です!

『全てのメーカー車』の取扱い 全国対応 ☆[一例]リース期間 5年 新車登録

スズキ キャリートラック KCエアコンパワード 2WD 3FAT

15,000円/月  
〔ファイナンスリース〕

19,800円/月  
〔メンテナンスリース〕



キャンター2トンダンプ全低床

架装角出しまで標準仕様

51,000円/月  
〔ファイナンスリース〕

60,000円/月  
〔メンテナンスリース〕

スズキ エブリイバン PAハイルーフ2WD 5ドア 3CAT

16,800円/月  
〔ファイナンスリース〕

21,500円/月  
〔メンテナンスリース〕



今最も輝き、最も注目されている演歌王

眞木乙み



当社のイメージキャラクター

NHK歌謡コンサート・のど自慢のゲスト

吉らめき歌謡ライブなど出演

民放テレビ・ラジオ、各地でのコンサート等出演

各種イベント・宴会並びに

夏秋のお祭りなどにご用命下さい。

"信頼"こそは、最も大切な品質とサービスだと考えています

TEL 042-629-1375 FAX 042-629-1376

東京都八王子市元八王子町3-2440-1

三住オートリース

住友三井オートサービス

災害復旧樹種検討委員会





年間特集

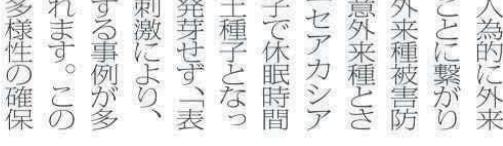
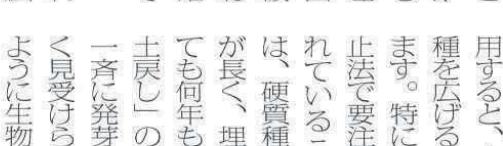
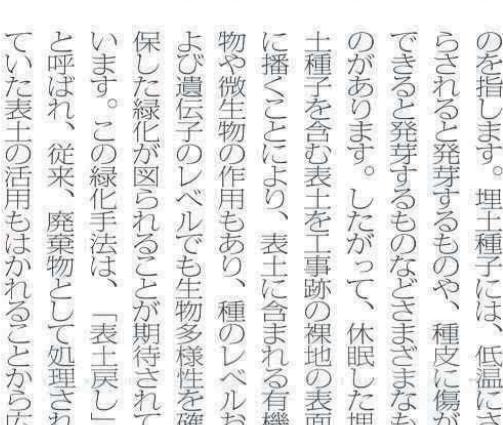
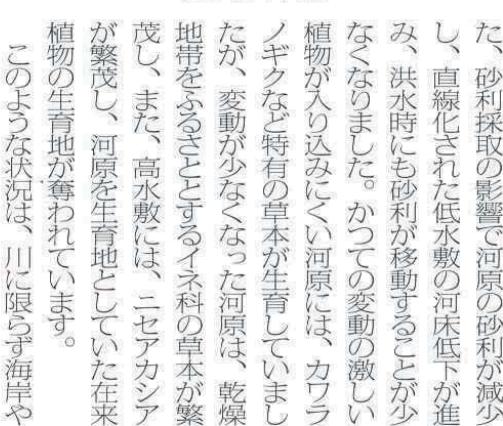
## 生物多様性を考える



河川堤防高水敷の「表土戻し」により開始されたニセアカシアの侵入



ニセアカシアに占拠された河川堤防高水敷(数年後の状態)



森づくりと生物多様性～豊かに生き延びるために～

## 第5回 外来種の逸出 「表土戻しと埋土種子」

近自然森づくり研究会会長 北海道工業大学大学院教授 岡村俊邦氏



### 生物多様性の保全と 外来種被害防止法

二〇〇八年に成立した生物多様性基本法に基づく初めての国家戦略となる「生物多様性国家戦略2010」では、生物多様性の危機の構造として以下の「三つの危機」および「地球温暖化の危機」を取り上げています。

・第一の危機：乱獲・開発によって、生物種が絶滅・減少していること。もし

くは生物種の生息地・生育地が減少していること。

・第二の危機：里山などが人手による手入れがされなくなつたため、その地の自然環境が変質したこと。

・第三の危機：外来種の侵入によって、既存の生態系が搅乱されること。

・地球温暖化の危機：地球温暖化によりもたらされる種の生息・生育地の縮小、消失等。

この中で、緑化との関わりが大きいものに外来種の逸出の問題があります。緑化の目的には、元々生態系の基盤となる物質生産を担う植物群落を再生する目的も含まれていますが、そのほかに表面浸食の防止や水源の涵養、景観の改善等もその目的にあります。これらの目的を早期に実現するため、日本にはこれまで世界中から様々な緑化植物を持ち込まれてきました。これらの外来種の中には、繁殖力が強く、持ち込まれた場所以外にも広がり、在来種の生育地を占拠してしまった種が含まれていることから、これらは

河川堤防高水敷の「表土戻し」により開始されたニセアカシアの侵入

河川堤防高水敷の「表土戻し」により開始されたニセアカシアの侵入

河川堤防高水敷の「表土戻し」により開始されたニセアカシアの侵入

河川堤防高水敷の「表土戻し」により開始されたニセアカシアの侵入

河川堤防高水敷の「表土戻し」により開始されたニセアカシアの侵入

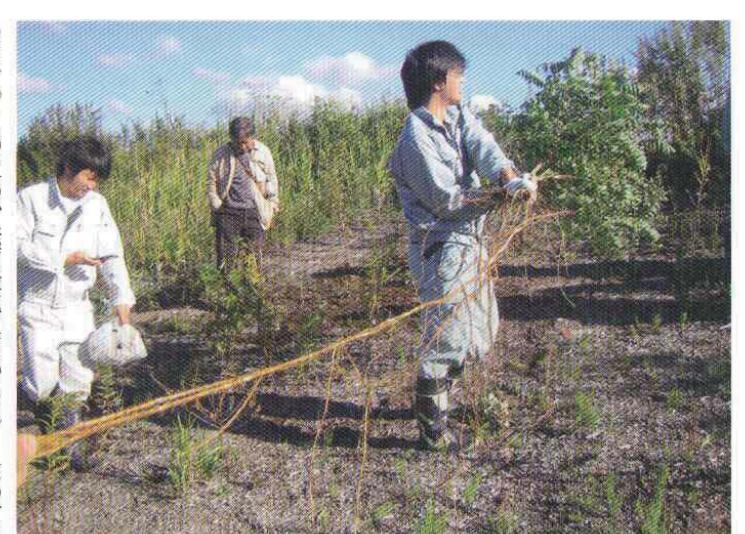
河川堤防高水敷の「表土戻し」により開始されたニセアカシアの侵入

河川堤防高水敷の「表土戻し」により開始されたニセアカシアの侵入

河川堤防高水敷の「表土戻し」により開始されたニセアカシアの侵入

### 法面緑化と 侵略的外来種

侵略的外来種と呼ばれ、生物多様性を劣化させる存在として規制の必要性が出てきました。そこで、二〇〇四年に外来種被害防止法が制定され、上記の繁殖力の強い外来種を特定外来生物として選定し、その持ち込みや栽培が規制されるようになりました。また、特定外来生物には選定されていないが、適否について検討中、または調査不足から未選定とされている生物種を要注意外来生物として環境省が選定することになっています。



生育地を拡大するニセアカシアの水平根(根の先端からも繁殖)

道路に近い市街地などでも起きており、人が外國から持ち込んだイタチハギやニセアカシアが広がっています。もともとは、ほぼ山や道路の法面を緑化する目的で植えられた植物が、外種が逸出して、生育範囲を広げると、もともと生育するはずの在来種は、生育の場を奪われます。この影響は、植物だけではなく、食物連鎖を通じて消費者である動物にも影響し、生物多様性を劣化させる原因となります。

### 表土戻しと埋土種子

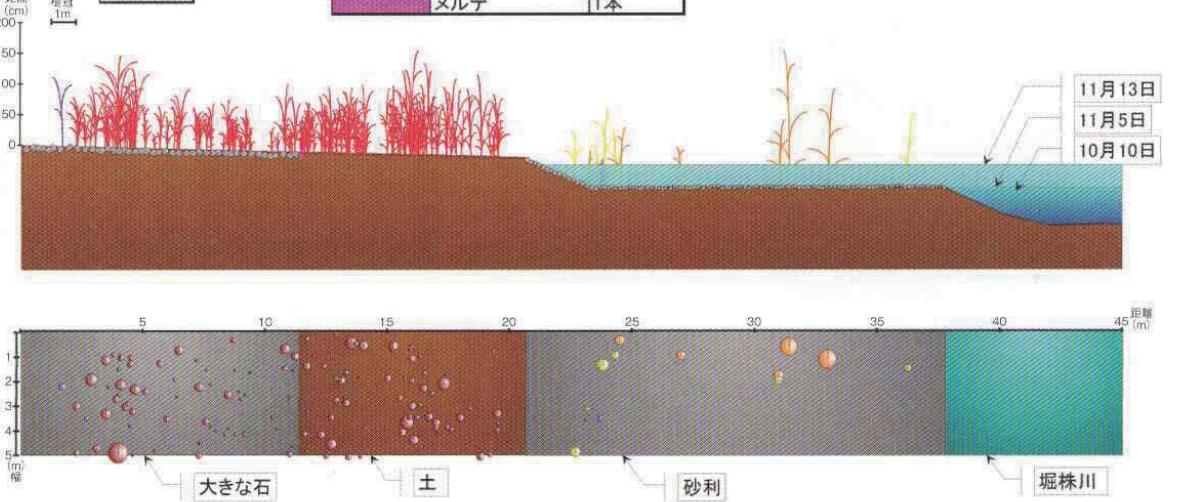
道路に近い市街地などでも起きており、人が外國から持ち込んだイタチハギやニセアカシアが広がっています。もともとは、ほぼ山や道路の法面を緑化する目的で植えられた植物が、外種が逸出して、生育範囲を広げると、もともと生育するはずの在来種は、生育の場を奪われます。この影響は、植物だけではなく、食物連鎖を通じて消費者である動物にも影響し、生物多様性を劣化させる原因となります。

堀株川 2008年調査

中水敷、低水敷横断面図 A地点

樹種	本数
ハリエンジュ	129本
オノエヤナギ	8本
エゾノカワヤナギ	6本
シロヤナギ	2本
ヌルデ	1本

2008年	
調査日	
10月10日	
11月5日	
11月13日	



冠水頻度の少ない高水敷に繁茂したニセアカシア(ハリエンジュ)

オリーブ畑より

小平植木

オリーブH2.0~3.0在庫有り

TEL: 096-380-2706 FAX: 096-380-2830  
E-mail: Kohraueki@s7.kcn-tv.ne.jp

を目的とした緑化が、逆に、生物多様性を劣化させることもあり、十分な注意が必要です。

しかし、ここに大きな落とし穴があり、より多くの在来種が混じった植生が求められるようになりました。

そこで、利用されたのが埋土種子です。埋土種子とは、種子が自然散布された後、休眠して土壤中に存在しているものを指します。埋土種子には、低温にさらされると発芽するものや、種皮に傷がある場合、休眠して土壤中に存在しているものができます。埋土種子には、低温にさ

れらされると発芽するものや、種皮に傷がある場合、休眠して土壤中に存在しているものができます。埋土種子には、低温にさ

れらされると発芽するものや、種皮に傷がある場合、休眠して土壤中に存在しているものができます。埋土種子には、低温にさ

れらされると発芽するものや、種皮に傷がある場合、休眠して土壤中に存在しているものができます。埋土種子には、低温にさ

れらされると発芽するものや、種皮に傷がある場合、休眠して土壤中に存在しているものができます。埋土種子には、低温にさ

## 私たちこう考える これからの日本植木協会

年間特集

インタビュー  
シリーズ

**いまや建築系では  
環境配慮設計が  
当たり前**



豊田幸夫(樹木医・環境造園家)

略歴:

1974年 千葉大学園芸学部造園学科卒、鹿島建設入社。  
1977年 桑沢デザイン研究所基礎造形科修了。  
1997年 鹿島・ランドスケープデザイン部兼務技術研究所。  
1999年 (株)ランドスケープデザインに出向、設計部・技術部長。  
2010年 鹿島建設退社。現在、樹木医・環境造園家として活動している。  
資格:樹木医、技術士(建設環境)、一級造園施工管理技士、英國園芸療法指導者(2級)。  
講師:RHISJ(英国王立園芸協会日本支部)コンテナガーデニング協会・講師。他。  
委員:財都市緑化機構主催の特殊緑化共同研究会、副運営委員長、NPO東京樹木医プロジェクト・理事  
エコグリーンネットワーク・技術顧問

主要著書:

「エコ&ヒーリングランドスケープ(環境配慮と癒しの環境づくり)」鹿島出版会・2005年、「建築家のためのランドスケープ設計資料集」鹿島出版会・1997年、「建築家のための造園設計資料集」誠文堂新光社・1990年。その他多数。

バブルに入る、例えば立地や間取りが良ければ売れていたマンションに付加価値としてランドスケープが求められるようになつたり、リゾート地のランドスケープが脚光を浴びるようになりました。ある意味で、緑地が単なる付け足しではなく価値のあるものになつたのです。しかしそれは、あくまで格好の良い景観としての緑地であつて、自然景観というよりはアートに近いものでした。竣工時に完成された景観になつている必要があつたので、その頃は大きな格好の良い木がよく使われていましたね。竣工後も木は当然育っていくわけですが、そのメンテナンスについては、あまり考へてはいませんでした。

一方で、バブル期は環境問題がより深刻になつていった時期もあり、環境に関する様々な法律があり、環境に関する法律が

私が鹿島建設の建設設計本部に入社したのは1974年です。その当時は、1973年に工場立地法が制定されたことによって、緑化といえば工場緑化がメインでした。空間を緑で埋めることだけを考え、なるべくメンテナンスに手をかけたくないということで、主流の樹種はマテバシイやヒマラヤスギといった常緑樹。落葉するし虫も付くサクラを植えるなんてことは、当時ではほとんどない話でした。

バブルに入る、例えば立地や間取りが良ければ売れていたマンションに付加価値としてランドスケープが求められるようになつたり、リゾート地のランドスケープが脚光を浴びるようになります。しかし、それは、あくまで格好の良い景観としての緑地であつて、自然景観というよりはアートに近いものでした。竣工後も木は当然育っていくわけですが、そのメンテナンスについては、あまり考へてはいませんでした。

## 都市でのランドスケープは「気持ちいい」

造園やランドスケープという言葉には、環境配慮のニュアンスはあります。そこで私は、環境に配慮した緑地やランドスケープを「環境造園」とし、それを「持続可能なよい環境を創ること」を目的として、技術や科学、経験など

いまでは建築と運動したランドスケープは環境配慮設計とするのが当たり前になりました。もはや建築系は、それが出来ないと生き残つていけないのです。



原宿の丘ビオトープ  
環境への配慮と自然との共生を図ったコンテナを使用した既存ビルのビオトープ化



エビスグリーンガーデン  
オリーブや花灌木、ハーブ、草花類の五感を刺激する植物を植えた既存建物の屋上緑化

これが環境に配慮した緑地やランドスケープづくりの基礎になります。そして、それを計画・設計する時には、A(アメニティ)・B(ビューティー)・C(コスト)・D(エコロジー)の4つのチェック項目(下記参照)が考えられます。このような緑地づくりは、そのエリアの潜在自然植生と現存植生を復元することを目指し、また生物多様性に配慮してなるべく多くの植物を選ぶことになります。しかし、それだけでは単なる森づくりでしかありません。私が環境造園の考え方やチエック項目に加えて、都市でのランドスケープをデザインするときには、「気持ちいい」というキーワードにしているのです。

### ■環境造園のチェック項目

A (Amenity)	安全性、機能性、快適性、バリアフリー等に留意して計画・設計する。
B (Beauty)	地域景観の保全や調和、建物との調和などを考慮するとともに、長期の使用にたてる飽きのこないデザインとし、廃棄物量の発生を抑え、かつLCCO <sub>2</sub> を抑制する必要がある。
C (Cost)	建設コストのみならず、維持管理コスト、廃棄処理まで考慮した計画・設計とする。高耐久性の材料やローメンテナンス材料の使用、再使用や再利用可能な材料を選ぶ。
E (Ecology)	自然界の物質循環・エコシステムを壊さず、活かすような環境に配慮した計画・設計とする。多様な生物生息環境の保全・復元・創出、地下水の滋養と雨水の有効利用、自然エネルギー・未利用エネルギーの活用、リサイクル可能な材料やリサイクルされた材料、自然親和性に富んだ材料、再生可能資源から作られた材料などの使用、リユース・リサイクルしやすい設計など。

## 地域ごとにPR拠点 となるような見本園を

環境に配慮した緑地をつくる時には、なるべくその地域で育った緑化木を使用したいと考えています。それは、生物多様性への配慮という面はもちろん、運搬時の環境負荷(CO<sub>2</sub>排出量)をなるべく減らしたいからです。また、なるべく大きくなりのを使用するようになつていくでしょう。かつてのようなら、完成時の緑地に対するではなく、育てていくことが人にとって「気持ちいい」ということがあります。また大きなほど、運搬時に環境負荷がかかるということもあります。そういう意味では、これからは規格外のものや格好の悪いもの、売り物になつて行くことです。

そういうものの受注をするためにも、さまざまなものが生産され、どういったものが集められるのかが分かるようなデータを提示した際のリスクマネジメントとして位置づけることができるでしょう。そのためには、食糧危機や大きな災害が発生した際にリスクマネジメントとして位置づけることができるでしょう。そのためには、食糧危機や大きな災害が発生した際にリスクマネジメントとして位置づけることができるでしょう。そのためには、食糧危機や大きな災害が発生した際にリスクマネジメントとして位置づけることができます。そうすれば、例えばビオトープは、鳥や虫たちにとて良い空間になつていても、それが数のようになつてしまつて人間にとて良い空間になつていなければ意味はありません。人間が暮らす場所では、自然と人間を分離してしまつてはダメなのです。ビオトープであつても、生き物だけでなく人間にとつても気持ちいい空間として提供するべきだと考えています。

です。

例えれば、グリーンなどで常設の評価項目もありますから、いまでは建築と運動したランドスケープは環境配慮設計とするのが当たり前になっています。もはや建築系は、それが出来ないと生き残つていけないのです。

そのためには、第一綠樹でメンテナンスフリー」といったことだけで、人々がその樹種とどのように関われるのか、樂めるのかに関する多様な情報を発信してほしいと思います。

さらに言えば、グループごとに常設の評価項目もありますから、いまでは建築と運動したランドスケープは環境配慮設計とするのが当たり前になっています。もはや建築系は、それが出来ないと生き残つていけないのです。

そのためには、第一綠樹でメンテナンスフリー」といったことだけで、人々がその樹種とどのように関われるのか、樂めるのかに関する多様な情報を発信してほしいと思います。

です。

例えれば、グリーンなどで常設の評価項目もありますから、いまでは建築と運動したランドスケープは環境配慮設計とするのが当たり前になっています。もはや建築系は、それが出来ないと生き残つていけないのです。

そのためには、第一綠樹でメンテナンスフリー」といったことだけで、人々がその樹種とどのように関われるのか、樂めるのかに関する多様な情報を発信してほしいと思います。

です。

## 国内研修会を岐阜県にて開催



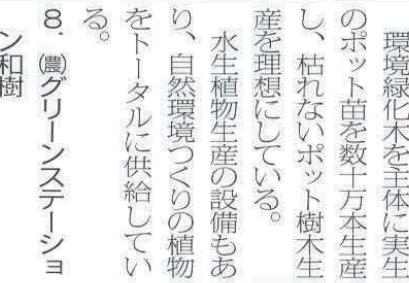
コンテナ部会は七月十日～十一日の二日間、愛知県と岐阜県において国内研修会を開催し、コンテナ部会員、贊助会員、協会員等、総勢五十二名が参加した。来年度、通常総会が開催される愛知県と隣接しながら、今まで機会のなかつた岐阜県を訪問する研修会。二日で九社園を訪問し、勉強会も挟み込むというスケジュールだったが、天候にも恵まれ、有意義な研修となつた。

◎訪問先  
1. ザ・ヤマグチ プランツマンズナーセリーブランチハンターとして名高い山口清重氏は、「自然界の贈り物」と呼ぶ珍しい植物に囲まれて暮らしておられる珍しい種類の植物を熱心に観察した。



2. (株)東海化成の曾大工場  
景山社長から工場見学の説明を受け、実際のビニールポットの製造工程を見学した。種類の多くは金型で提灯のように成形され、二

熱心に観察した。



3. (株)養本社  
土屋会長が、会社が稻作と柿の生産地帯に立地しているので、地域に対応できる特色ある企業経営の必要性を解説。実例としてのドゴンフルーツや完熟マンゴーの生産風景を参加者は熱心に観察した。

4. 岐阜種苗  
竹中常務が、生産体制について、販売予測に基づき、全国の委託契約農家で研修会では温室兼配送センターに顧客のニーズを掘り起こしたり、確かめたりするモデル展示を準備して頂き、売店で重要なポップを多種類用意して、販売予測と販売促進の取組の一端を披露した。



5. (株)グリーンナーセリー前田  
山林種苗の生産からはじまり、ポット樹木の生産を昭和五十年から業界のさきがけとなつて手がけた。環境绿化木を主体に実生のポット苗を数十万本生産し、枯れないポット樹木生産を理想にしている。



6. (株)岐孝園  
加藤孝義社長は会議室での生産加工販売会社。コンテナ部会員に日本一のサボテン販売を成し遂げたまでの経営哲学をわかりやすく説明した。販売面では壁の色と緑の関係や顧客ニーズに対する梱包技術の引き細かい実例を見学した。

◎勉強会  
①「東アジアの植物について」講師 ザ・ヤマグチ ブランツマンズナーセリーブランチハンターとして山口清重氏  
山口講師はスライドを使い、樹木種子採集人のなれいながら、次々に映し出される樹木の説明に集約され思ひ出とともに映され、メタセコイアの写真は感動の思いが詰まっていた。

7. (株)グリーンナーセリー前田  
山林種苗の生産からはじまり、ポット樹木の生産を昭和五十年から業界のさきがけとなつて手がけた。環境绿化木を主体に実生のポット苗を数十万本生産し、枯れないポット樹木生産を理想にしている。



8. (農)グリーンステーション  
平成十二年九月の東海豪雨で最近のアメリカで注目で安倍講師はパワーポイントで講師 日本ギボウシ協会 安倍浩 氏  
お話を聞きました。そこで、研修会について

（2）ギボウシ（ホスター）について  
ロジティック部会は、平成二十四年九月二十六日十六時から仙台市／メルパルク仙台において平成二十四年度通常総会を開催した。次第に従い、沖副部会長が開会宣言をし、佐土原部

議案について  
第一号議案、並びに第二号議案について  
（平成二十二年度事業報

第三種郵便物認可  
（6）  
コンテナ部会は七月十日～十一日の二日間、愛知県と岐阜県において国内研修会を開催し、コンテナ部会員、贊助会員、協会員等、総勢五十二名が参加した。来年度、通常総会が開催される愛知県と隣接しながら、今まで機会のなかつた岐阜県を訪問する研修会。二日で九社園を訪問し、勉強会も挟み込むというスケジュールだったが、天候にも恵まれ、有意義な研修となつた。

◎訪問先  
1. ザ・ヤマグチ プランツマンズナーセリーブランチハンターとして名高い山口清重氏は、「自然界の贈り物」と呼ぶ珍しい植物に囲まれて暮らしておられる珍しい種類の植物を熱心に観察した。

2. (株)岐孝園  
加藤孝義社長は会議室での生産加工販売会社。コンテナ部会員に日本一のサボテン販売を成し遂げたまでの経営哲学をわかりやすく説明した。販売面では壁の色と緑の関係や顧客ニーズに対する梱包技術の引き細かい実例を見学した。

◎勉強会  
①「東アジアの植物について」講師 ザ・ヤマグチ ブランツマンズナーセリーブランチハンターとして山口清重氏  
山口講師はスライドを使い、樹木種子採集人のなれいながら、次々に映し出される樹木の説明に集約され思ひ出とともに映され、メタセコイアの写真は感動の思いが詰まっていた。

7. (株)グリーンナーセリー前田  
山林種苗の生産からはじまり、ポット樹木の生産を昭和五十年から業界のさきがけとなつて手がけた。環境绿化木を主体に実生のポット苗を数十万本生産し、枯れないポット樹木生産を理想にしている。

8. (農)グリーンステーション  
平成十二年九月の東海豪雨で最近のアメリカで注目で安倍講師はパワーポイントで講師 日本ギボウシ協会 安倍浩 氏  
お話を聞きました。そこで、研修会について

（2）ギボウシ（ホスター）について  
ロジティック部会は、平成二十四年九月二十六日十六時から仙台市／メルパルク仙台において平成二十四年度通常総会を開催した。次第に従い、沖副部会長が開会宣言をし、佐土原部

議案について  
第一号議案、並びに第二号議案について  
（平成二十二年度事業報

（6）  
コンテナ部会は七月十日～十一日の二日間、愛知県と岐阜県において国内研修会を開催し、コンテナ部会員、贊助会員、協会員等、総勢五十二名が参加した。来年度、通常総会が開催される愛知県と隣接しながら、今まで機会のなかつた岐阜県を訪問する研修会。二日で九社園を訪問し、勉強会も挟み込むというスケジュールだったが、天候にも恵まれ、有意義な研修となつた。

◎訪問先  
1. ザ・ヤマグチ プランツマンズナーセリーブランチハンターとして名高い山口清重氏は、「自然界の贈り物」と呼ぶ珍しい植物に囲まれて暮らしておられる珍しい種類の植物を熱心に観察した。

2. (株)岐孝園  
加藤孝義社長は会議室での生産加工販売会社。コンテナ部会員に日本一のサボテン販売を成し遂げたまでの経営哲学をわかりやすく説明した。販売面では壁の色と緑の関係や顧客ニーズに対する梱包技術の引き細かい実例を見学した。

◎勉強会  
①「東アジアの植物について」講師 ザ・ヤマグチ ブランツマンズナーセリーブランチハンターとして山口清重氏  
山口講師はスライドを使い、樹木種子採集人のなれいながら、次々に映し出される樹木の説明に集約され思ひ出とともに映され、メタセコイアの写真は感動の思いが詰まっていた。

7. (株)グリーンナーセリー前田  
山林種苗の生産からはじまり、ポット樹木の生産を昭和五十年から業界のさきがけとなつて手がけた。環境绿化木を主体に実生のポット苗を数十万本生産し、枯れないポット樹木生産を理想にしている。

8. (農)グリーンステーション  
平成十二年九月の東海豪雨で最近のアメリカで注目で安倍講師はパワーポイントで講師 日本ギボウシ協会 安倍浩 氏  
お話を聞きました。そこで、研修会について



